

アメリカでの産業
カウンセリングの発展

ホーソン実験

レスリスバーガー

メイヨー教授(ハーバード大)の
「照明の影響」実験

能率、生産性を向上させるカギ
を発見

作業環境や労働条件よりも従業員
の態度、人間関係

1936年より面接制度発足

1945年に40人のカウンセ
ラー配置

メーシー百貨店

精神科医アンダーソン

1924年から4年間、従業員
との面接調査

行動の奥にある原因を調べて、
カウンセリング→適応を高める

本人と会社にメリット

オークリッジ工場

カウンセラーを任命

精神的ケアのための病院づく
り・早期発見早期治療

キャタピラー・プログラム

1943年 ドーカスとケイス

職場不適応の改善
災害防止へ効果

特色

心理学者主導のもとに企画実施

心理テスト、カウンセリング、
教育訓練

EAP

「従業員援助制度」

1940年代
アルコール依存症対策

ストレス、メンタルヘルス、家
族問題、対人葛藤、経済問題

特色

問題解決を援助することが作業
効率と生産性の向上につながる

アメリカの過半数の企業が
EAPを利用している

短期カウンセリング

1928年 不満→面接が効果的
人事制度が発足→産業カウンセリングの源流
モラル(勤労意欲)が作業能率を決定することが判明